

2020年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

ミッション・ステートメント（使命宣言）：「私たちは、生徒の自尊感情を高める実践を追求します。」

1 本校が目指すもの

(1) 目指す学校像

学校像 1	さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちを受け入れ、 仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student is left behind.)
学校像 2	生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、 入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校 (Overachievement)
学校像 3	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love "Tokufu.")

(2) 目指す生徒像

生徒像 1	自己成長感 （「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、 自己効力感 （「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、 自己有用感 （「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った 自尊感情 の高い生徒 (Self-esteem)
生徒像 2	自己指導能力 （その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を持った生徒 (Self-guidance)
生徒像 3	自立と社会参加に必要な「基礎的・基本的な学力」と「実践的・専門的な技能」、及び ソーシャルスキル （他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）と ライフスキル （社会生活・職業生活等に必要な基礎的な能力）を身に付けた生徒 (Social-skills and Life-skills)

(3) 目指す職員像

職員像 1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く 協働の姿勢と利他の精神 (Collaboration and Altruism) を体現した職員
職員像 2	目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける 専門職 (Profession) としての姿勢を体現した職員
職員像 3	「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢 を調和的に体現した職員 (Synthetic Competence)

(4) 目指すコース像

総合コース	社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす 「最強の常識人」 を育成するコース
ドッグケアコース	犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する 「ドッグマスター」 を育成するコース
パソコンコース	情報社会で生きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて 「とがったITジェネラリスト」 を育成するコース

2 学校経営課題

(1) 徳風技能専門学校高等課程について、学則を一部変更し、商業実務分野に属する国際ビジネス科に加え、**文化・教養分野**に属する「**総合科**」を新設し、本年度から2分野2学科体制に拡充するとともに、「ダブルスクール就学」を可能にする徳風高等学校と徳風技能専門学校高等課程の連携について、これまでの「技能連携」を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「**高専併修**」を新たに導入します。

さらに来年度は、日本語指導が必要な外国人生徒・海外帰国生徒等を対象とする「**日本語コース**」を第4のコースとして新設し、本学園は「**3年間の専門的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校**」としても進化していきます。

このように本学園は、一層多様な生徒を受け入れ、社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する「**フレキシブルスクール**」へと進化を続けていきます。

	徳風技能専門学校高等課程		徳風高等学校 (全日型コース)	両校の連携制度
	分野	学科		
2019年度まで	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	技能連携
			パソコンコース	
			総合コース	
2020年度以降	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	高専併修(新)
			パソコンコース	
			総合コース	
	文化・教養(新)	総合科(新)	日本語コース(新) (2021年度設置)	

(2) 徳風高等学校全日型コースの総合コースについて、「目指すコース像」を「**社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす「最強の常識人」を育成するコース**」とし、同コース像に沿った講座体制となるよう、「**ライフスキル講座**」を新設するなど、次のとおり選択講座を再編します。

2019年度		2020年度	
講座	講座	指導内容	
ネイルアート講座	同左	ネイリスト養成(ネイルアートの基礎・基本、専門的知識・技能の習得、校外実習等)	
スポーツ講座	同左	健康生活の基礎(体づくり運動、ニュースポーツ等)	
調理講座	同左	家庭生活の基礎(一人暮らしに役立つ料理、テーブルマナー、栄養学等)	
グローバル・コミュニケーション講座	コミュニケーション講座	文化生活の基礎(国語又は英語の公文式学習)	
	ライフスキル講座	社会生活・職業生活の基礎(消費者教育、金融教育、ビジネスマナー、労働者の権利等)	

3 本年度の重点実践項目

次の2つの取組を「重点実践項目」として計画的に実践します。

重点実践項目	計画概要
1 自学自習方式による「積上げ学習」の継続	学校設定教科・科目の中で、1年生全員を対象に昨年度から始めた公文式教材を使用した「積上げ学習」を、本年度も総合コースの1・2年生全員及び他の2コースの希望生徒を対象に、複数教科で継続実施する。

2 総合コースにおける高専併修科目の改編	科目「言語活動」並びに選択講座「コミュニケーション講座」及び「ライフスキル講座」を新たに開設し、豊かな経験と高い専門性を有する外部講師とのチーム・ティーチングを通じて学習活動の活性化を図る。
----------------------	---

4 本年度の計画と自己評価

以下において、「目指す状態」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	授業規律の徹底不足のため、学習意欲の喚起・学習習慣の確立・学力の向上につながりにくい状況が一部にみられる。また、各教科の授業については、共通的な取組よりも各教員の自主的な工夫に任されており、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業についても、共通理解が十分図られていない。		
目指す状態	知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。		
実践内容	公文式教材による「積上げ学習」の成果と課題の検証及び検証結果の次年度への反映	自己評価	成果を基に次年度の教育課程を一部改善した。
	校内授業公開週間の設定2回		校内公開授業を1回実施した。
全普通教科で卒業までに完全習得させる「徳風版ミニマムエッセンシャルズ」の策定	策定に向けて各コースの習得内容を立案した。		
評価指標	生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒7割以上		54%
	職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員5割以上	58%	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 全教科・科目で指導と評価の一体化を図るため、「生徒による授業評価」を新たに実施し、その結果を生徒の学習と教員の指導に生かす。 新規導入したIT機器を活用した授業の在り方に関する教員研修を実施する。 公文式学習について、これまで2年間の成果と課題を総括し、最適な実施方法を確立する。 		

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談への対応の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全教員が、生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。		
実践内容	職員打合せ等での生徒の適切行動・問題行動等に関する情報共有	自己評価	毎朝の職員打合せ等で必要に応じて情報共有を図った。
	重点指導事項(共通実践項目)の決定と全教員による共通実践		共通実践を要すると判断した事項は、その都度共通理解を図ったうえで実施した。
特別な支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年10回以上実施	年度当初においてケース会議を集中的に実施したが、事例検討会はほとんど実施できなかった。		
評価指標	問題行動による特別指導件数年15件以内		14件
	生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒7割以上	77%	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解を一層深め、各学年の集団としての教育力を高めるため、職員室の座席や毎朝の職員打合せの持ち方等を工夫する。 必要な生徒について、出身中学校、医療・福祉その他各関係機関との連携協力体制の下で生徒を適切に導き、支え続ける協力態勢を構築する。 		

ウ 進路指導

現状と課題	進路選択が依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。1年次から段階的に進路意識を高めていくことができるよう、3年間の系統的な進路指導計画を策定し、全教員による共通理解・共通実践が必要である。		
目指す状態	生徒が、必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		
実践内容	進路決定までの流れを分かりやすく表した図表等の作成と全教室掲示	自己評価	作成のうえ、来年度の各HR教室に掲示する予定である。
	模擬面接、進学補習、小論文指導等の計画的・組織的指導		第3学年を中心に、必要な生徒を対象に実施した。
内規・マニュアル等の精査・改訂と校内共有の徹底	実施できなかった。		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒7割以上	約7割	
	生徒満足度調査において、「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒7割以上	65%	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の観点から、各学年の目標・内容等が3年間を見通した系統的なものとなるよう進路指導計画を改定する。 内規・マニュアル等を精査し、全教員に周知徹底を図る。 		

エ 安全・健康指導

現状と課題	保健室を利用する生徒も多く、精神面も含めた健康指導や個別の相談業務など、種々の対応に負われる状態が続いている。今後は、専門スタッフの配置も視野に入れ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について、抜本的に検討する必要がある。		
目指す状態	生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒等に関する情報が全職員に共有されており、安全・健康指導面での人的・物的環境も態勢が整っている。		
実践内容	健康（感染症対策等）に関する啓発活動の計画的実施	自己評価	新型コロナウイルス感染症に関する18本の生徒・保護者宛て通知文書を発出し、全校生徒対象に感染防止等に関する講話を年3回（各学期開始時）実施した。
	特別な支援を必要とする生徒に係る「個別の指導計画」の作成・活用		詳細な計画は作成できていないが、必要な生徒に関する対応マニュアルは作成・活用できた。
特別な支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年10回以上実施（再掲）	年度当初においてケース会議を集中的に実施したが、事例検討会はほとんど実施できなかった。（再掲）		
評価指標	心身の健康状態が年度当初に比して改善された生徒多数		該当生徒もいるが、登校しずらく欠席の多い生徒もいる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 必要な生徒について、出身中学校、医療、福祉その他各関係機関との連携協力体制の下で生徒を適切に導き支え続ける態勢をつくる。（再掲） 学校保健安全法第27条及び同法施行規則第28条第1項に基づく安全点検を各学期1回は必ず行う。 		

オ 特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活が送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている。		
実践内容	生徒主体の学校行事（体育祭、文化祭等）の開催	自己	新型コロナウイルス感染拡大により、学校の判断で規模を縮小して実施せざるを得なかった。

	生徒会のボランティア活動への積極的参加	評価	新型コロナウイルス感染拡大により中止した。
評価指標	生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒7割以上		58%
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員主導による生徒会行事を実施する。 ・生徒全体の意見を反映した改善活動に取り組むなど生徒会活動の活性化を図る。 		

カ 部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海大会・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目指す状態	多くの部が計画的・自主的に活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。		
実践内容	生徒会による部活動活性化キャンペーンの実施 硬式野球部の活動に必要な環境整備と具体的支援	自己評価	実施できなかった。 顧問の主体性に頼ることが多かった。
評価指標	生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒7割以上		36%
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの部で部員が主体的に新入部員勧誘活動を行うなど、部活動活性化に向けた生徒会中心のキャンペーン活動を行う。 ・昨年度創設した硬式野球部が高野連主催の大会に出場できるよう必要な取組を継続する。 		

キ 総合コース

現状と課題	在校生の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性が不透明である。		
目指す状態	コースとしての揺るぎない基本理念を作り上げることなどによりコース経営の安定化を図るとともに、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組んでいる。		
実践内容	社会の中で「生きて働く力」を身に付ける新講座や、言葉で考え、表現する能力の向上を目指す新科目の開設 全校体制による公文式教材を使用した「積み上げ学習」の実践 認知機能の向上を目指す個別トレーニングの実践	自己評価	新科目「ライフスキル」・「言語活動」を総合コースの教育課程に位置付け、専門家による授業を継続的に実施した。 計画通り実施し、公文の大阪本部から高い評価を得た。 関係者で検討のうえ個別トレーニングは未実施しなかった。
評価指標	生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		74%
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度策定した「目指すコース像」を踏まえ、ネイルアート講座の存続の適否を検討する。 ・開設講座の再編活性化を図る。 		

ク ドッグケアコース

現状と課題	生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学してきた生徒に対しても、その期待に応え、希望の進路実現ができるよう、プロスタッフの充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全職員が「目指すコース像」について共通理解をしたうえで共通実践し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している。		
実践内容	卒業生による関係職種別講演会の実施 生徒用学習書・担当者用指導書の作成 トレーニング・トリミングに関する学年別集中講義を長期休業中に2回以上実施	自己評価	新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかった。 完成に向け作成中。 2・3年生対象に夏期・冬期休業中に2回以上実施した。
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒7割以上 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		93% 73%

行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者数がやや減少傾向にあるため、その要因を分析して得られたエビデンスに基づく創意工夫を生かした広報活動を組織的・積極的に展開する。 ・専門職員の更なる専門性向上に向けた具体策を策定し、可能なものから計画的に実施する。
------	---

ケ パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。また、生徒の得意を伸長するため、自主的に学習できる環境が必要である。		
目指す状態	全生徒が複数の検定試験を受験し合格している。また、個別に設定された目標に向け自主的に学習している。		
実践内容	資格取得に向けた個別計画の作成・活用	自己評価	学期ごとに聴き取りを行い、個に応じた資格取得学習を実施した。
	eラーニングシステムによる国家試験対策の実施		ITパスポート試験対策をeラーニングシステムで実施した。
	プロダクト制作を通じた学習活動の実施		プロダクト制作における「広告・宣伝」を中心に、ウェブサイト制作を実施した。
評価指標	日本情報処理検定3級以上を取得した生徒8割以上	97%	
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上	76%	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新規導入したICT機器の積極的活用を図る。 ・各指導者の専門性に関する「強み」を活かした指導の充実を図る。 		

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備

現状と課題	体育館照明のLED化や設備更新を必要とする箇所がある。計画的に対策を講じていく必要がある。		
目指す状態	工事・修繕等を計画的に行い、生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。		
実践内容	第2多目的教室への視聴覚機器の導入	自己評価	完了した。また、コロナ対策としてオンライン用パソコンを新規導入した。
	体育館照明のLED化		完了した。
	管理棟外壁防水工事その他各種工事の計画的実施		オンライン学習の実施に備えて学習保障用タブレットを新規導入した。
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事等年度内着工3件以上。 ・全職員協力による情報教育棟内壁塗装及び天井整備の実施。 ・一部教室のエアコン取替工事の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要修繕箇所はできる限り早期に対応した。 ・体育館倉庫屋根修繕工事、生徒手洗い場修繕工事、生徒寮1F風呂改修工事、情報教育専門棟等のトイレ・シャワールームのタイル改修工事、一部教室のエアコン取替工事等を計画的に実施した。 ・全職員が協力し、情報教育棟の内壁塗装及び天井整備を実施した。 	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施。 ・安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施。 		

イ 組織運営

現状と課題	職員間・分掌間の連携・協力や情報の共有が十分とは言えない。今後は、研修の充実や組織体制の見直しなど必要な対策を講じる必要がある。		
目指す状態	職員一人一人が職員間・分掌間で「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら意欲的に職務を遂行し、「役割間の隙間にある業務は自分の仕事」と考え行動する協働の姿勢と利他の精神を持つ職員が多い。		
実践内容	職員会議での組織力向上に関する意識啓発文書の配付年5回以上	自己評価	6回
	学校評価活動に係る各取組の完全実施		完全実施できた。
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施		重点改善事項11本のうち6本を実施。
	全職員の労働時間の適正把握		時間外労働自己申告システムを構築し、適正把握に努めた。
実践内容	「働き方改革」に係る具体的方策3つ以上実施		「働き方改革アクションプラン」を策定し、改革プラン20本のうち6本を実施した。
評価指標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員6割以上		61% (昨年度37%)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末反省の結果を集約して決定した「重点改善事項」を確実に実施する。 ・全職員の労働時間の適正把握に努め、「働き方改革アクションプラン」を着実に進める。 		

ウ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる必要がある。		
目指す状態	生徒・保護者・職員の学校満足度の高い状態が続いている。		
実践内容	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を12月に実施	自己評価	12月に実施。
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施（再掲）		重点改善事項11本のうち6本を実施。（再掲）
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上、保護者8割以上、職員6割以上		()内の左は2019年度、中は2018年度、右は2017年度の数值。 ・生徒 61.1% (67.4%、60.2%、52.7%) ・保護者 73.8% (75.3%、67.8%、62.0%) ・職員 72.3% (52.6%、42.1%、21.1%)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各満足度調査を継続実施し、別途実施する「年度末反省」の結果等も踏まえながら、各満足度を高められるよう改善方策を具体的に立て実施する。 ・全職員の労働時間の適正把握に努め、「働き方改革アクションプラン」を着実に進める。（再掲） 		

5 本年度の学校関係者評価

- 「働き方改革」や各種改修工事等の教育環境の整備を計画的に進めており、職員の満足度が継続的に向上していることは評価できるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により授業や学校行事の予定変更を余儀なくされたためか、向上傾向にあった生徒・保護者の満足度が本年度は低下した。次年度は向上に転じることを期待したい。
- 本年度は、当学園について亀山市の市議会だよりに年4回掲載されたり、民放テレビの報道番組の中で2週連続放映されたりして、当学園を地域に知っていただく千載一遇の機会を得た。次年度は「日本語コース」を新設することもあり、創意工夫を生かした自前の広報活動の積極的な展開を期待したい。
- 本年度は各コース主任への若手教員の起用が積極的に行われ、新たに各コースの「目指すコース像」が明示された。各コース主任には、専門科目の授業満足度の向上や特色ある教育活動を通じた魅力化を一層図るなど、リーダーシップを大いに発揮して「目指すコース像」を実現してほしい。
- 学習指導・生徒指導・進路指導の更なる充実・発展を阻害する要因を見極め、各指導の充実に向け組織的に対応してほしい。

6 次年度に向けた主な行動計画

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組がたくさんあり、それらを“徳風スタイル”と表現しています。次年度も次の2点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

(1) “フレキシブルスクール”への進化

- 本学園は本年度、上記の「2 学校経営課題」で記したとおり、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、文化・教養分野に属する「総合科」を新設して2分野2学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール就学”を可能にする徳風高等学校との連携制度について、本年度以降の入学生を対象に、これまでの「技能連携」を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「高専併修」を新たに導入しました。
- この制度改革により、次年度は、外国にルーツを持ち、外国につながる日本語指導を必要とする生徒等を対象とする「日本語コース」を第4のコースとして立ち上げ、本学園は、「3年間の専門的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」として、また、既存の3コースについても独自性を維持しながら必要な改革を追及し、「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」として、更なる進化を続けていきます。

	徳風技能専門学校高等課程		徳風高等学校 (全日型コース)	両校の連携制度
	分野	学科		
2019年度まで	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	技能連携
			パソコンコース	
			総合コース	
2020年度	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	高専併修(新) (2020年度以降の入学生対象)
			パソコンコース	
	文化・教養(新)	総合科(新)	総合コース	
2021年度	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	高専併修
			パソコンコース	
			総合コース	
	文化・教養	総合科	日本語コース(新)	

(2) “働き方”の進化

- 本学園は2020年7月、管理職と有志教員数名で構成する校長直属の特別委員会「働き方改革検討委員会」を設置し、同委員会での審議を経て、同年10月に「**働き方改革アクションプラン**」を策定しました。同プランでは、「全教職員がワーク・ライフ・バランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、「**全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること**」を目的にして「働き方改革」に取り組むこととします。
- 合計20本の改革プランは、内容別に「やめる」、「減らす」、「変える」及び「始める・つくる」の4つに仕分けしたうえで、「本年度中に実施」、「来年度中に実施」、「令和5年度末までに実施」及び「令和6年度以降に実施」の4つに区分し、各改革プランを計画的に実行に移しながら「働き方改革」を進める予定です。